

「国際環境リーダー(修士)」認定プログラム

2025年度募集要領

大学院環境・エネルギー研究科

1. 概要・狙い

今や「環境」というテーマは、企業や自治体等が自身の本業・本務のなかで的確・確實に配慮・実行していく時代となっている。本プログラムは、国際的な視野で環境に実践的・具体的に取り組み、組織内でリーダーシップを発揮できる人材を育成するために設置された。各学生の環境に関する専門分野に加えて、横断的なテーマで広く実践的かつ国際的な知識と経験を培うことを狙いとしている。

本プログラムでは、修士課程修了に必要な 31 単位の範囲内で、次頁の【表1】に示す科目を履修することによって、「国際環境リーダー」としての素養を身につけることができるよう構成されている。

なお、本プログラムに登録のうえ、資格要件を満たした者には修士号に加えて、「国際環境リーダー」としての認定証を授与する。

2. 申請方法

通常の科目登録とは別に、申請フォーム「国際環境リーダー認定プログラム履修申請」から申請する。(後日、事務所より URL を送付)

【申請期間】

2025年4月入学者:2025年4月3日(木)9:00 ~ 4月7日(月)17:00

2025年9月入学者:2025年9月21日(日)9:00 ~ 9月29日(月)17:00

不明な点は、環境・エネルギー研究科事務所に、メールで問い合わせること。

weee@list.waseda.jp

3. 資格要件

以下の【表1】に示す科目のうち、①および②～④のいずれか1科目を履修し、合格しなければならない。
なお、⑤～⑨の科目についても履修を推奨する。

【表1】「国際環境リーダー対象科目一覧」

科目名	区分	備考
① 国際環境人材育成講座 秋学期・水曜 3 時限・2 単位 担当:小野田・野津 他	プログラム必修科目	
② アジアの環境実践研究 秋学期・木曜 5 時限・2 単位 担当:納富・野津 他		希望者多数の場合は選抜を行う。
③ 修士論文 (国際性が含まれていることが条件)	プログラム選択必修科目 ※3科目(②～④)から1科目を選択	【国際性】とは、以下の内容を持つことをいう。 ・修士論文の1章分以上を、海外を取り扱った調査や日本と海外との比較等に当てること ・修士論文関係テーマで、first author として英語による学会発表あるいは論文作成を行う(行った)こと 上記を申請時あるいは修士論文審査時に厳格に審査・判定する。
④ インターンシップ (国際性が含まれていることが条件) 2単位(随意科目扱い)		【国際性】とは、その業務内容に国際的と認められる事項が十分に含まれることをいう。環境リーダー資格取得希望学生からのインターンシップ申請時に、研究科は、上記の【国際性】に該当するかを事前にインターンシップ先に確認のうえ、認定する。
⑤環境システム評価論 春学期・金曜 1 時限・2 単位 担当:納富		【表2】コア科目「環境システム評価論」と同一科目
⑥環境配慮エネルギー・循環システム論 春学期・木曜 3 時限・2 単位 担当:小野田		【表2】コア科目「環境配慮エネルギー・循環システム論」と同一科目
⑦環境共生・地域社会システム論 春学期・金曜 2 時限・2 単位 担当:野津	プログラム推奨科目	【表2】コア科目「環境共生・地域社会システム論」と同一科目
⑧環境・エネルギービジネス実践講座 秋学期・木曜 2 時限・2 単位 担当:小野田		
⑨環境創造企業の事業戦略 秋学期・火曜 4 時限・2 単位 担当:小野田		

4. その他の認定条件

プログラム選択必修科目の「③修士論文」を選択した者は、「修論論文」に加え、以下の課題を提出しなければならない。提出期限は後日指定する。

①修士論文要旨の提出

- ・日本人学生は 1000words 程度の英文
- ・外国人学生は 5000 字程度の日本文

②国際性を包含する活動に関するレポートの提出

- ・A4 1 枚にまとめる

※英文が好ましい(日本語でも可)

5. 参考

本プログラムを構成する科目のうち、修士課程修了要件に算入される単位数との関係は以下の【表2】のとおりである。

【表2】 ※科目の詳細はシラバスを参照のこと。

科目	修了要件	本プログラムのうち修了要件に算入される単位数	備考
コア科目	4~14	2~6	【表1】の⑤,⑥,⑦を選択履修した場合
その他講義科目	0~12	8	【表1】の①,②,⑧,⑨を選択履修した場合
演習科目	15または18	–	
インターンシップ	–	0	単位は付与するが、修了必要単位には算入しない
修士論文	0	0	プログラム履修に関わらず、課程修了のためには修士論文の提出・合格は必須
合計	31単位以上	6~14単位	

6. 履修モデル例

以下に、履修モデル(例)を示す。参考にされたい。

【表3】 基本モデル(推奨事例)

学期	科目	区分
1年・春学期	環境共生・地域社会システム論	プログラム推奨科目
	環境配慮エネルギー・循環システム論	プログラム推奨科目
	環境システム評価論	プログラム推奨科目
	コア科目より1科目以上選択	
1年・秋学期	アジアの環境実践研究	プログラム選択必修科目
	国際環境人材育成講座	プログラム必修科目
	環境・エネルギー・ビジネス実践講座	プログラム推奨科目
	環境創造企業の事業戦略	プログラム推奨科目

■ 推奨する基本的な履修モデルである。

【表4】 共同研究型モデル

学期	科目名	区分
1年・春学期	環境共生・地域社会システム論	プログラム推奨科目
	環境配慮エネルギー・循環システム論	プログラム推奨科目
	環境システム評価論	プログラム推奨科目
	コア科目より1科目以上選択	
1年・秋学期	修士論文:国際性の包含 指導教員に相談のうえ、研究計画書を提出する	プログラム選択必修
	国際環境人材育成講座	プログラム必修科目
	環境・エネルギービジネス実践講座	プログラム推奨科目
	環境創造企業の事業戦略	プログラム推奨科目

- 企業連携の修士論文を志向する学生の選択モデルである。企業連携の修士論文の認定は、環境・エネルギー研究科が行う。指導教員にその可能性を問い合わせること。